

雪かき道場における参加者・主催者・地域の価値共創分析

○遠山敬史(長岡技科大院), 上村靖司(長岡技科大)

1. はじめに

雪かきの技術をボランティアに伝え実践する雪かき道場において、鹿島らは参加者アンケートの自由記述欄に注目し、テキストマイニング分析を行い、非雪国在住者には「楽しく新鮮な体験」との印象が強いことを示した¹⁾。本研究では、顧客(参加者)に対して「雪かき体験」というサービスを提供し、参加者、主催者、地域の3者の共通体験を通して“価値を創造する”ことと捉え直し、平成28年度～30年度冬季に実施された雪かき道場で得られたアンケートを分析した結果を報告する。

2. アンケートについて

平成28年度～30年度の雪かき道場の開催地は、山形県酒田市日向、新潟県長岡市川口木沢、糸魚川市西海、長岡市山古志、長野県長野市鬼無里の5地区である。アンケートは、年齢・性別等の基本情報であるフェイス項目、雪かき道場のプログラムに関する項目(感情及び空間要素に関する「経験価値」、認識変化及び積極性に関する「自分ごと化」、自分ごと化に影響する他者との「知識共創」)、楽しさを感じた内容(6項

目、レーダーチャート式)、最後に感想や要望の自由記述の4部構成とした。プログラムに関する項目ではリッカート尺度の5段階評価(「あてはまる」から「あてはまらない」とした。分析にはアンケートデータの質的変数同士における属性の相関関係を分析するため、クラメールの連関係数(Cramer, 1999)を用いた。

3. 分析結果

ここでは平成29年度の雪かき道場開催地域全体の分析結果を図-1に示す。経験価値は円、自分ごと化は四角形、知識共創は三角形で表現している。また、連関数が4つ以上ある項目を黒色、3つまたは2つだと灰色、1つだと薄灰色で表した。数字は設問間の連関値を表している。また、枠の大きさは連関係数の平均値が高いほど大きくしている。評価の閾値を0.5以上に設定した結果、13の設問のすべてにおいて他の設問と一定の相関関係にある「連関あり」であった。これは経験価値、自分ごと化、知識共創の要素が密に絡まって価値を創造していることを示唆している。個々の設問から伸びる腕の数(連関数)は、経験価値要素である「雰囲気」と「分かち合い」が特に多

い。最も高い連関値(0.825)を示したのもこの2つの設問間であった。なお、3冬季のデータの比較は本発表時に報告する。

参考文献

- 1) 鹿嶋功貴, 上村靖司, 2015, 雪かき道場が参加者に与える印象のテキストマイニング分析, 日本雪工学会誌, 31(4), pp.1-9.

